

「高澤先生、今度テニスやりませんか」「もう何年もやっていないよ。運動すらしていないよ」
「〇〇がお盆にでもやりたいって言うんですよ」「そう、では久しぶりにやるか」

というわけで、この夏休みのお盆に、5年ぶりにボールを打つことになった。8月12日、久しぶりにテニスの格好をして、森合のテニスコートに向かった。駐車場に着くと、懐かしい顔があった。誘ってくれたW君の同級生と4人くらいでやるのかと思っていた。車から降りると、W君とは代が違うメンバーがいた。「あれっ」テニスコートに行ってみると、さらに人がいた。10人を超えていた。様々な代のメンバーがいた。その後も人が増えていった。テニスをやらずに顔を出すだけの人もいた。中学卒業以来会っていない懐かしい顔が何人もいる。

すでに入念な準備運動を家でやってきた私は、軽くストレッチをして、ラケットを握った。「あれっ」意外と打てる。ボールが跳ぶ。だが、体力がもたなかった。10分もしないうちに、交代となった。その後は、しゃべったり、ボールを打ったり、試合をしたりと楽しい時間を過ごした。教え子たちは、私が動けることをしきりにほめてくれた。そこには、とても60になる人とは思えないという気持ちが入っていることは、容易に想像できた。

前々から、この日は夜の会もあることは聞いていた。着替えて、時間に遅れないように、会場に向かった。中に入った。森合のテニスコートに集まったメンバーがいるのかと思ったら、さらに人が増えていた。総勢30人を超えていた。多少、驚いた。参加者の名簿があった。見せてもらうと、「高澤組（あの辛かった日々を1日だけ思い出そうの会）」というタイトルが目に入った。

メンバーの共通点は、同じ中学校のソフトテニス部であることと顧問が私であったことである。その学校には、6年間いた。ちゃんと、6つの代のメンバーが参加していた。最初の代は、部活動ではわずか3か月の付き合いである。にもかかわらず、何人も参加してくれていた。それが、一番うれしかったかもしれない。

その中には、大会に出場するときに、ユニフォームの背中につけるゼッケンを持ってきてくれた人もいた。卒業後、ずっと大事に持っていてくれたのだろう。きっと彼にとっては勲章のようなものなのだろう。卒業アルバムを持ってきてくれた人もいた。そこには、懐かしい若き日の私の写真があった。

こんな話も聞いた。あの頃、3年生が引退し、次の部長を決めるために、2年生全員に“1日部長”をやらせていた。やってみないと、自分が部長をできそうかどうかわからない。部長をやってみれば部長の苦労もわかる。その日の部長には、職員室の私のところに来させて、その日の練習メニューを渡して話をするようにしていた。そうすると、いろいろなことがわかる。

ある女子生徒が、今でも自分が1日部長を務めたときの練習メニューの紙を持っているという話をしてくれた。その生徒は、部長にはならなかった。ゼッケンといい練習メニューの紙といい、部活動の力はすごいと思知らされた。

(次号に続く)